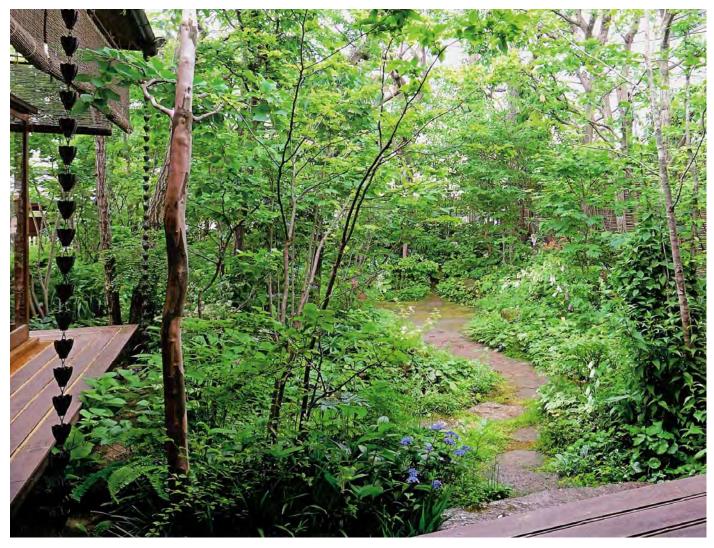
ガーデンをデザインしよう!

ーガーデンデザインの基礎から応用ー



立命館大学大阪いばらきキャンパス講座

第2回ガーデニング講座

日 時 2017年2月25日(土) 午前9時30分~11時30分

場 所 立命館大学 大阪いばらきキャンパスC棟3階 ラーニングシアター(C373)

- ・日本・海外の庭園形式の歴史・流れを学び、今ガーデンデザインがめざす姿を見通しつつ、 デザインの実際、手順を身につけていただきます。
- ・身近にあり、みんなで育てつつあるOICのキャンパスガーデンを、改めて「ガーデンデザイナー」 の目で見直し、良いところ、改善したいところを考えます。

講師 髙田昇(都市プランナー・ガーデンデザイナー・立命館大学客員教授) 嶋かずみ(ガーデナー・一級造園施工管理技士)

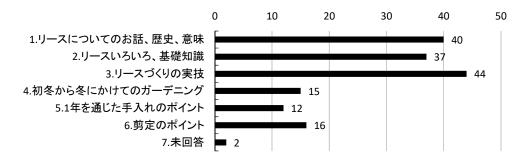
第11回ガーデニング講座 アンケート結果のご紹介(2016年11月26日実施)

講座テーマは『クリスマス&新春に生きるリースづくり~』で開催し、クリスマス&新春に生きる リースづくり」「季節のガーデニングのツボを押さえる」などの内容で、62名の方が参加されました。

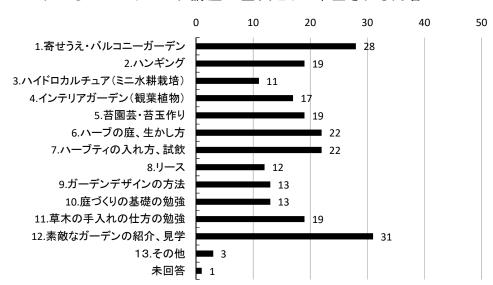
1. 今日の講座について



2. 今日の講座で、特に興味を持たれた内容について



3. これからのガーデニング講座の企画として希望される内容について

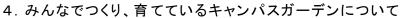


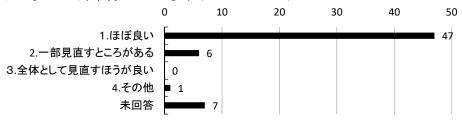














1. 各地のガーデン事例紹介

近江八幡 ラ・コリーナ La Collina

藤森照信設計

たねや「クラブハリエ」が、これまでの店づくりの「総集編」とも言える「50年、100年・・・悠久の歳月をかさねながら実り豊かな森の中に、生き活きと、人と自然を繋げる」とのコンセプトで展開する壮大な構想。自然を愛し、自然に学び、人々が集う繋がりの場をめざしている。

木を植え、ホタル舞う小川をつくり、田畑を耕しながら、和・洋菓子のメインショップをはじめ、飲食店、マルシェ、専門ショップ、パンショップなど、ゆったりとした自然の流れの中で楽しめる。

A メインショップ(たねや・クラブハリエ)



C 建物、樹木、稲穂が一体の風景



E 自由に歩くコースを選べる線形



B 誘い込まれる緑のゲートの演出



D 山、建物、緑地が同化する美しさ



F 建物周りの「回廊」、緑地の広がり



秋篠の森(A~D)・くるみの木(E・F)

店づくりの達人・石村由起子さんのプロデュース・経営の2店。1983年の最初の作品「くるみの木」は雑貨ショップ、ギャラリーを併設するカフェ。ガーデン・カフェの草分けとなった。2004年オープンの「秋篠の森」はさらに進化させ、「森づくり」から始め、本格的なレストラン「なず菜」をコアに、カフェ、ショップ、ゲストハウス、ギャラリーが「小さな村」をつくる。完全予約制、入れ替え制(昼)なのでご注意を。(A~Dは秋篠の森、E・Fはくるみの木)

A「森」の緑と建物、玄関、小径が誘う



C メインのレストランをデッキと「森」が包む



E 建物と小径、ガーデンが一体化



B「サンルーム」でもあるカフェ周りの多彩な緑



D サイン類も緑と一体化



F 自然との共生を感じさせる「小道具類」



グランフロント大阪(北館9Fテラスガーデン)

大都会・大阪の玄関にあたる「ウメキタ」。超高層のオフィス、ショップ、ホテル、マンションが林立する中で、広々とした屋上庭園がつくられている。立地条件やメンテナンスの制約からシンプルなつくりではあるが、「都会の中で自然と共生する」考え方が貫かれた「自然風」、ナチュラルガーデン計画となっている。

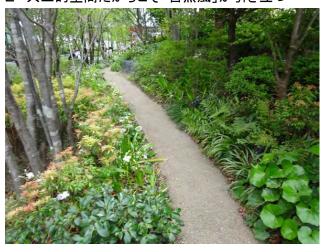
A 樹形が一番楽しめる冬景色も 「ウィンターガーデン」として大切



C 白い花とグラス類の中に丸いツワブキの葉



E 人工的空間だからこそ「自然風」が引き立つ



B グランドカバー、グラス類 + 樹 形 だけで つくれる風景



D 水の流れ、石組み、「自然風」植栽が都会を忘れさせる



F 全体が「フォンテンガーデン」のコンセプト



兵庫県立淡路景観園芸学校

「景観園芸」という新しい学問分野を確立した、1999年開校の日本初・唯一の本格的な園芸家を育てる学校。学びのキャンパスと合わせて、園芸療法ガーデン、屋上庭園、ロックガーデン、花の庭、沈床庭園、カラーガーデン、植物のふるさとガーデンなど、実習の場でもあり、誰もが鑑賞できる場でもある各種ガーデンが揃っている。カフェテリア「風の詩」もあります。

A キャンパス全体が「モデルガーデン」、 ほとんどのガーデンスタイルが揃う



C ダイナミックな「ロックガーデン」



E やはり珍しいエスパリエ(壁面での仕立て栽培)



B 典型的な「コニファーガーデン」



D 珍しい沈床ガーデン(サンクンガーデン)



F ガーデンを楽しみながらのキッチンカフェ



2. 日本庭園の歴史と移り変わり

2-1 日本庭園の特性

日本の庭園は、ヨーロッパなどの洋風庭園とは昔から違った、次のような要素をもっています。

- ・自然の模倣(海、池、山、川など)
- ・建築との一体性(建物とのつながり、関係の重視)
- ・宗教観との関係性(「蓬莱山」、禅宗の修行など)
- ・近代以後に和洋の並存

2-2 日本庭園の移り変わり

〈中世—鎌倉期12C~室町期16C〉

仏教が力をもち、後世に残る寺院建築が多くつくられるのに伴い、平安期に先立ってつくられる平等院(1052年)の浄土庭園に代表される極楽を表現する庭園も登場。

京都では夢窓疎石(1275~1351年)による西芳寺、天龍寺などの自然を表現する日本庭園のルーツが見られます。

また、武家の登場により、中尊寺(頼朝)、金閣寺(義満)といった新しい流れも生まれます。

〈近世—安土桃山期17C~江戸期19C後半頃〉

江戸幕府が確立、各地の大名制度が定着するのに呼応して、大きな力をバックとした今に 残る大規模な「名庭園」が各地に登場します。

日本の三名園とされる兼六園、後楽園、偕楽園など今も「名所」とされる庭も、多くはこの時代のもので、いずれも雪月花といった日本の風土を背景、テーマとしています。

一方で、アサガオの多品種化やサクラ(ソメイヨシノ発明)の普及など、今日につながる庶民の「家庭園芸」も盛んとなりました。

〈近·現代—明治期以後19C末頃~〉

商人、事業家の台頭と共に、スポンサーを得た作庭家(小川治兵衛など)が多く活躍したり、 文化人(渋沢栄一、武者小路一門など)の好みに合う、新しい「フリースタイル」の庭が多く登場します。

また、それまで「作庭風」が主流だったのに対し、飯田十基による「雑木の庭」ともいわれる「自然風」の新しい庭づくりの波も昭和初期(1950年頃)から始まります。

そして「イングリッシュガーデン」の紹介が本格化(1990年頃)、今に到っています。

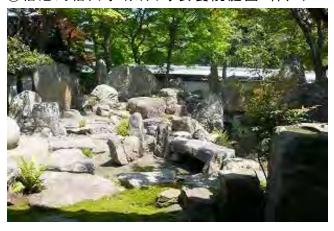
〈平安期前後〉

①浄土式庭園(平等院・京都)



〈中世〉

②枯池式枯山水(太山寺安養院庭園・神戸)



③砂庭式枯山水(龍安寺方丈石庭:京都)



④回遊式庭園(西芳寺(苔寺)・京都)



〈近世〉

⑤池泉座視式庭園(智積院庭園·京都)





⑥池泉回遊式庭園(兼六園·金沢)



⑧詩仙堂·京都



〈明治·大正期〉

⑨池泉回遊式庭園(慶沢園・大阪)



〈昭和期〉

⑩城南宮楽水苑・京都(小川治兵衛作)



いいだじゅうき 飯田十基によるシアトル日本庭園 1959—













3. 洋風庭園のタイプ

3-1 「作庭風」「風景庭園」(ピクチュアレスク)

幾何学的模様(直線、方 形、多角形、円形などを組み 合わせた模様)を基本とし て、左右対称とすることが多い。

植栽も単調で、シンプルな 普 温性を求める志向が強い。樹形は、人工的に形を 整え、遠くからの「眺め」によ る美しさ、壮大さをめざす。



3-2 「自然風」「ナチュラルガーデン」(ガーデニクス)

19世紀末頃から、イギリスの田舎家の庭(コテッジガーデン)が注目され、多種多様な植物を導入し、宿根草中心、ツル性植物やハーブの多用により、植物本来の姿を大切にしつつ、新しい色彩理論や造形理論も取り入れるようになった。それらが今日の「イングリッシュガーデン」の源流となっている。



4. デザインへのアプローチ 一どこから、誰が、何のために見る・使う庭か

A 家族揃ってのワークショップからスタート



C 植栽はオーナーの希望とプロの提案のコラボ





D 古民家再生のイタリア料理店の客席から見る



F アプローチ、駐車場でも「庭の予感」を



5. ガーデンデザインの方法

■ガーデンデザインの方法1

5-1 ガーデンデザインの意義 ―なぜデザインが必要なのか

- (1)個性的な緑地空間、ガーデンを創る(画一的な緑化、公園からの脱皮)
- (2)美しく、魅力ある空間を創る(雑然とした庭から、センスある、クオリティの高いガーデンへ)
- (3)植物の特性を生かす

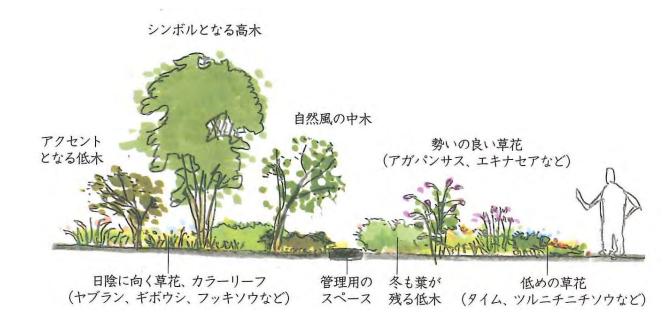
5-2 ガーデンデザインの基本

(1)コンセプト、テーマの設定

- ①コンセプト(基本となる理念、独自の主張)を明確に持つ
- ②テーマ(創作の根本的意図)を自分なりに決める
- ③スタイル(様式、型、手法)を想定する

(2)フレームとなる「形」をつくる

- ①「テーマ」を形の方向に展開する
- ②形の枠組みを想定する
- ③植物のタイプを選定する
- ④植物の組み合わせ方、配置を決める

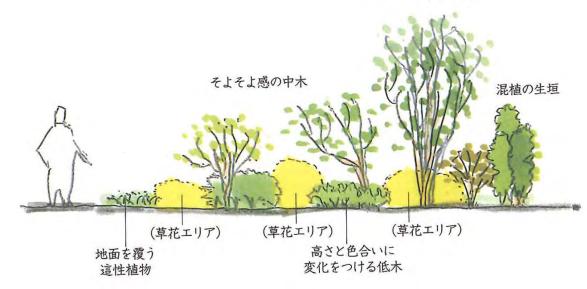


植物の選定、組み合わせ、配置の手順でガーデンの「形をつくる」

(3)色を合わせる

- ①テーマカラー(基調となる色)を決める
- ②色の組み合わせ方を検討する(同系色、差し色=補色など)
- ③「緑」の色の変化を取り入れる

アイキャッチの高木



自然風の樹木配置で、ガーデンデザインの骨格を固める

(4)デザインの質を高める

- ①デザインの基本形=自然風を押さえる
- ②樹木と草花の組み合わせ方を決める
- ③植物の具体的な種類を選ぶ

5-3 色のもつ意味、性格を把握し、表現に生かす方法

- ①赤・ピンク
- ②オレンジ・黄
- ③ブルー・紫
- ④グリーン・白
- ・自然界にみる色 (炎、太陽、夕暮れ、月、海、空など)
- ・歴史・文化にみる色 (神社、着物、富、文学、物語など)
- ・心身への影響 (神経、脳、ストレス、視力、安らぎなど)
- ・色のもつ性格 (強さ、優しさ、温かさ、健康、希望など)

■グランドカバープランツをマスターしよう!

地被植物とも呼ばれ、地面を覆う植物の総称が「グランドカバープランツ」。 土面がむき出しにならず、すき間や壁の殺風景さをやわらげ、庭や鉢植えが 映える効果が期待できます。同時にいろんな役割を果たしてくれる強い味方!

- ☑ 土の乾燥や照り返しの防止
- 雨による泥はねの防止
- 4 雑草対策

グランドカバープランツの特徴と選ぶコツ

- ■横に広がって、「芝生」に近い効果が期待できる

 - ・ポリゴナム(ヒメツルソバ) フォンテンガーデン
 - •ワイヤープランツ フォンテンガーデン
 - ・リシマキア
 - ・クラピア (ヒメイワダレソウ)
 - *芝生のように踏んでも大丈夫にしたいなら"クラピア"
 - *ポリゴナム、ワイヤープランツは生長力の 「強さ」に注意





ポリゴナム

クラピア

- ■こんもりまとまって、「すき間」を埋める役割をはたす
 - ・エリゲロン………… ウェルカムガーデン
 - ・ゲラニウム
 - •アルケミラモリス
 - ・ベロニカジョージアブルー(オックスフォードブルー)

* 丈夫で長く花が楽しめるのは"エリゲロン" * 寒さに強く常緑性なら"ベロニカ"





エリゲロン

ゲラニウム

■日当り、乾湿、耐寒・耐暑など幅広い環境に耐える

- ・ビンカミノール(ツルニチニチソウ) …… ワールドガーデン・フォンテンガーデン
- ・ビンカ(ヒメツルニチニチソウ) ワールドガーデン・フォンテンガーデン
- •這性ローズマリータウンガーデン•ハーブガーデン
- ・ツルマサキ......タウンガーデン
- ・グレコマ………フォンテンガーデン
- *ツルニチニチソウの仲間も多く、斑入りの葉、葉の大きさ、花の色(紫色)などその場所に合うものを。
- *強くてやさしい感じなら"グレコマ"





ビンカミノール

グレコマ

■丈夫で長持ちする、数年植えたままにできる

- ・コバノランタナ ウェルカムガーデン
- ・セダム(マンネングサ)フォンテンガーデン
- ・ハイビャクシン ……………… フォンテンガーデン
- *強すぎる"ランタナ"ではなく、"コバノランタナ"がおすすめ *寒さ、乾燥にも強い多肉植物"セダム"



コバノランタナ

■花や葉の美しさが楽しめる

- •アリッサムウェルカムガーデン•ワールドガーデン
- •宿根ブラキカム*ウェルカムガーデン*
- ・バコパ ウェルカムガーデン
- ・ラミウム…… ワールドガーデン
- ・アジュガ......フォンテンガーデン
- ・ベロニカジョージアブルー
- * 花はたくさん、でも暑さに弱く、寒さに強いのは"バコパ""アリッサム"
- *真冬以外花が楽しめるのは"ブラキカム"





アジュガ

ラミウム

6. OICキャンパスガーデンのデザインをふりかえって

6-1 キャンパスガーデンデザインの方針(当初)

■キャンパスガーデン全体のイメージ

ただ花を一杯植える、同じような植物を形通り並べる、というのではなく、デザインから、制作、 植込み、そして育成を通じて、感動を与えるガーデン風景をつくりたいと考えています。 そこで、次のようなイメージを、みんなが共感して始められたらと願っています。

(1)自然な風景を美しくつくる

自然界に見られる草原、森、林、里山などの風景をモチーフとしつつ、それらを凝縮して、美しく表現することにより、参加の強みを生かした、多彩で心を引きつける力あるガーデン風景をつくります。

(2)人を誘い、自然とふれあう

「うっそうと繁る自然」ばかりではなく、常に人が近づき、手入れをしつつ、自然とのふれあい、 自然との対話が生まれるような植栽配置とします。

(3)感性、創造力を培う、季節感

日本が世界でも類を見ない繊細な季節の変化を持つ土地柄であることを生かし、多種類の草花、常緑と落葉の樹木などを混ぜて取り入れることで、少なくとも「四季」より「八季」を感じ、市民、学生の情操が育まれるようにします。



6-2 各エリアの計画と移り変わり

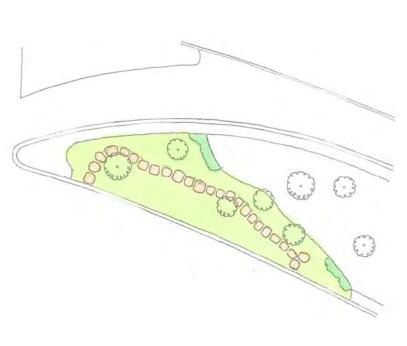
A タウンガーデン Mix Color Garden

「街と出会う」場所であり、キャンパスと街が一体になるところです。 キャンパスにある様々なガーデンの見本になる植栽として、色彩も「ミックスカラー」とします。



B ウェルカムガーデン White Garden

「キャンパスと出会う」場所であり、誰もがここから学び舎に誘われるところです。 広がりを感じさせる、見通しよい植栽として、色彩も出発点らしく「白」を中心とします。







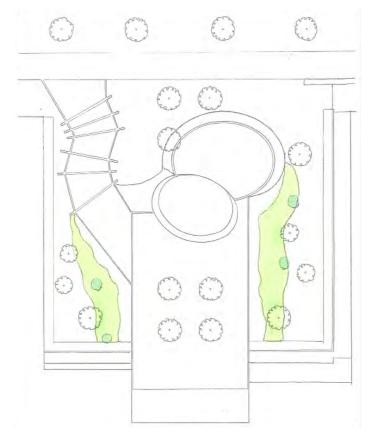
C ハーブガーデン Blue Garden

「人と出会う」場所であり、多くの人が行きかうところです。階段を登るときに、風に香りが運ばれてくる・・・ハーブを主とした植栽として、色彩は香る花に多い「青・紫」を中心とします。



D ワールドガーデン Yellow & Red Garden

「世界と出会う」場所であり、留学生のコーナーに近く、囲われた広場であることから世界の人々が憩い交わるところです。世界のいろんな土地の植栽を集め、色彩も彩りあざやかな「黄・赤」を中心とします。





E フォンテンガーデン Green Garden

「自然と出会う」場所であり、南に続く里山に誘うところです。里山・草原などを感じる植栽として、色彩も「緑」を中心とします。「フォンテンガーデン」はガーデニング用語で、自然に近い庭のことを指します。

